

神奈川県立保土ヶ谷支援学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和5年度 第2回 学校運営協議会及び学校評議員会		
開催日時	令和5年9月29日(金)		
開催場所	南学習室		
出席者	令和5年度保土ヶ谷支援学校 学校運営協議会委員 9名(本校校長を含む) 令和5年度保土ヶ谷支援学校 学校運営協議会事務局教職員 9名		
次回開催予定日	令和5年 12月 13日(水)		
問合せ先	神奈川県立保土ヶ谷支援学校 副校長 川島 結子 電話 045-714-0126 Fax 045-742-9716		
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
審議(会議)経過			
<p>1 会長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回は重点課題「就労支援、進路支援」についての取組について、その報告と今後に向けての方向性も含めて協議を進めていきたい。 <p>2 学校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年は猛暑が続いている。しばらくは熱中症に気をつけながら教育活動を行っていく。 ・新型コロナウイルス、インフルエンザ等の感染症の流行について、9月2週目に本校でも学年閉鎖があった。 ・9月から数年ぶりにプールを再開した。子どもたちはとても楽しそうに活動しており、その生き生きとした様子を見て、やはり必要な学習なのだと感じた。 ・2学期は宿泊行事、運動会、スポーツフェスティバルなどの体育行事を予定している。 ・神奈川県立特別支援学校の管理運営規則が変更。9月県公報の範囲でお伝えする。 <ul style="list-style-type: none"> ①これまで3学期制だったが、校長の届け出により2学期制にできるようになる。 ②長期休業、特に学年末、学年始については日程も決まっていたが、校長の届け出によって規定日数(66日)の範囲内で変更できるようになる。 →今年度は4月1日、2日が土日で、2日間のみ準備で入学式を迎えることになり、職員からも心配な声が上がっていた。この変更によって特色のある教育編成が柔軟できるようになる。 ・中間評価等そろった。忌憚のないご意見をいただきたい。 <p>3 出席者及び会成立の確認(事務局：副校長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A委員が欠席。本日は9名出席、会は成立。 <p>4 資料確認、流れ説明(事務局：副校長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に郵送させていただいた式次第から変更。本日配付の式次第で進めさせていただく。 ・資料の訂正 資料7重点課題 就学支援→就労支援に訂正 ・その他配付資料 			

学校要覧、進路だより、広報(職員紹介)・ゆめのね通信(児童家庭センター本校に取材)
10月28日(土) チャレンジ教室真田太鼓の案内チラシ

・この後は会長に進行をお任せする。

5 議題(報告・説明) 副校長

◆第16回清掃技能検定報告

8月30日(水)に行われた。今年度は20名の生徒が参加した(昨年度は12名)。

自在ほうき部門、タオル部門、ダスタークロス部門に参加し、2名の生徒が1級をいただいた。

(副会長) 清掃技能検定は雇用部会も関わっており、会場に見に行った。教員も80名程携わって行っていた。

①「学校評価」中間評価 資料4

◆各学部・グループより

<小学部>(教頭)

・交流について

権太坂小との交流。双方の学校に出向いて対面で交流するのは4年ぶり。

境木小とは児童間で直接交流するのは今年度が初めてとなる。

・会議時間の短縮

朝の学部打合せを3分以内にした。学部会も30分以内でおさまっている。

その分、授業準備や指導の打合せに使っている。

<中学部>(中学部リーダー)

・境木中との交流について、今年度は7月に作業学習で1回行い、問題なく実施できた。現在、作品交流も行っている。

・今年度も12月に境木自治会館のツリーの飾り付けを行う。来週月曜(10月2日)に民生委員の方に来校いただき、生徒の様子を見てもらう予定。

<高等部>(教頭)

・効率化に向けて必要な会議等の精査をし、時間等も数値化することで意識を変えていく取組を行ってきたことで、職員の意識にも変化が見られてきた。

<舞岡分教室>(教頭)

・地域の事業所を新たに2箇所見学して、障害理解をすすめた。

・9月26日(火)に田んぼの稲刈りを終えた。現在志願相談中だが、このような地域交流の取組などについて生徒に伝えている。

<横浜平沼分教室>(教頭)

・横浜平沼高校の文化祭では、今年度初めて職業班がボッチャの紹介のワークショップを行った。順番待ちの行列ができるほどの盛況だった。

- ・11月には横浜平沼高校の生徒とボッチャの交流も予定している。

<管理運営グループ>(管理運営グループリーダー)

- ・防災への取組について、専門家の意見をいただいた。また、境木地区の防災訓練(10月8日実施)にも参加する予定。
- ・後期も文科省事業の活用や、地域の警察署からの助言等、地域や専門家の力も借りながら安全防災に取り組んでいく。
- ・車内点検サポートシステムが導入され、動作確認を行った。
- ・4年ぶりのプール再開。管理運営グループ、健康班、体育科と連携して念入りに計画しながら安全に実施できた。本日が今年度プールの最終日となる。

<教育企画グループ>(教育企画グループリーダー)

- ・今年度より年間授業計画の書式を校内で統一した。これにより学部を超えた縦のつながりが見やすくなった。
- ・人権研修では児童養護施設の施設長を講師にお迎えし、虐待防止の視点からご講義いただいた。2学期開始直前のタイミングだったこともあり、より日々の指導とつなげて子どもとの接し方を考えられたというような意見もあった。

<教育支援グループ>(教育支援グループリーダー)

- ・校務効率化について、給食事務は試行期間段階。リリースできれば、毎月の業務にかかる時間が40~50分軽減される。
- ・後期も必要な部分を残し、不要な部分を削るといった形で業務内容を整理し、次年度に向けたマニュアル改訂の準備を進める。

<連携支援グループ>(教頭)

- ・サマーセミナーでは授業紹介の講座を企画し、実際の授業を近隣校の教員に公開した。「子どもの気持ちになって楽しめた」といった感想が寄せられた。
- ・進路情報の発信、教材の紹介を行った。
- ・進路の手引きをもとに各学部で研修会を実施。今後も進路やキャリア教育の推進に向けて発信していく。

②「切れ目ない支援部会」中間報告 資料5 教頭

- ・1回目7月24日(月)は15名の参加。学校間交流についての情報共有をした。
- ・目的を確認したうえで、それぞれの学校に過度な負担にならない形、かつ効果のある交流や活動を考えていくことが課題。次回は1月に実施。

◆ふれあい作品展について

8月24日(木)~8月28日(月)まで横浜高島屋で開催。

小学部から分教室までの作品を展示した。次年度から開催がなくなるため、別の形での作品展示等を探っていきたい。

◆境木中学校との作品交流

9月25日(月)～9月29日(金)本校中学部の廊下に境木中学校支援級生徒の作品を掲示。素晴らしい切り絵が展示されているので、本日お時間あればぜひご覧になってほしい。

③「農園活用部会」中間報告 資料6 教頭

- ・昨年度からの課題である「情報発信の不足」に対して、今年度は職員会議で農園活用部会の取組を共有した。また、いちようだより(学校だより)の中で地域とのかかわりの一つとして紹介した。
- ・農園で収穫したジャガイモを給食で提供できた。今後も、さつまいもや大根を作る予定のため、境木の収穫祭(感謝祭)や給食で提供できたら。
- ・滑り台の設置や凧作り(スポーツ協会から)季節のあそびを高等部生徒が小中学部の児童・生徒に教えるなどのアイデアも考えている。
- ・熱中症との兼ね合いで工夫しながら活動している。

議題に対する各委員からの質問・意見

(会長)

- ・各学部の中間評価について、民生委員からひとつのこと。

(C委員)

- ・12月に生徒がオーナメントを持ってきて自治会館のツリーの飾り付けをしてくれるのを楽しみにしている。
- ・農園活用部会については、その時の収穫次第ということもあると思うが、11月19日に境木ふれあいの樹林運営委員会で感謝祭があるので、よければお持ちいただければ。

(会長)

- ・舞岡分教室では新たに地域の事業所2箇所の見学を行ったとあったが、D委員からはいかがか。

(D委員)

- ・うちでは主に生活介護をやっている。少し前までは生活介護の実習も多くあったが、3、4年前から実習の受け入れが少なくなってきた。他も同様と聞く。就労支援B型の人気が高まっているということもある。時代の変化。それも重要なこと。
- ・就労支援B型に進んだ方でも結局はついていけなくて生活介護に流れてくる実状もある。入った子がつぶれない取組も必要かと考える。
- ・小学部について「さん」づけ呼称の重点期間97%の達成率はなかなかすごい。我々も意識しつつもそこまでいかないことが多い。前後の先生や子どもの変化等はどうか。

(教頭)

アンケートの結果が現在手元になくわからない。

(会長)

「さん」づけ呼称については、ただ「さん」づけすればよいのではなく、それがどのように日頃の接し方や人権への配慮につながるかだと思う。それについてはどう考えるか。

(教頭)

- ・高等部でも「さん」づけ呼称の強化に取り組んでいる。強化期間はよいが、だんだん緩くなっていく様子もある。その都度取り組んでいく必要を感じる。
- ・小中でも「ちゃん」づけになってしまうこともある。一人ひとりを大切にする取組ができたらと思う。

(D委員)

- ・うちでも3年に1回取り組んでは、まただんだん…となっている。呼び捨てだと、その後につながる言葉が乱暴になる。
- ・「さん」づけ呼称をすることで次に続く言葉も丁寧になる。そうしていくことで、他の方もそのような(丁寧な言葉を発する)雰囲気になる。常に考えていくことが大事なのではないかと思った。

(会長)

切れ目ない支援部会は今後、現在の活動をブラッシュアップしていくとのこと。
今後の方向性について、B委員からいかがか。

(B委員)

- ・つながりについてタテとかヨコとかというが、そもそも陸続き。それよりも草の根的に取り組んでいくべきと考える。
- ・「なにを、どうやってやるか」に注目し、負担の大きさから削減や縮小につながりがちだが、Why?が大事。なぜやるのかという目的を考えてやっていきたいと考えている。

(会長)

小学部から交流についてあったが、E委員からはどうか。

(E委員)

- ・最近の子は偏見が少なくなっている。自然にやさしくかかわっている。個別最適な学びというが、一人の人として認め、「みんなちがってみんないい」という感じ。むしろ偏見を持っているのは大人なのかもとも思う。
- ・さきほど人権の話になったが、最近虐待の概念も変わってきていて、虐待と思われる案件も増えている。その背景には「育てにくさ」もあると思う。保護者の孤立を防いでいくといった取組も大切だと感じる。うちでもぜひ児童養護施設のお話をお聞かせいただきたい。

(F委員)

- ・学校内でも「さん」づけを意識ということで、我が家で利用している施設などでも「さんづけ」を聞く。浸透していていることを感じる。それぞれが少しずつ意識していくことで全体が変わっていくのだと今日の話聞いて思った。

(会長)

全体的に計画的に進んでいると確認してよいか。それでは10月以降も継続して取り組んでいただければと思う。

(副校長)

良い。10月以降の取組についても承知した。

6 協議 重点課題「就労支援、進路支援」の課題について

◆就労支援・進路支援の取組の報告 資料7 教頭

副会長には何度も足を運んでいただき感謝している。資料に沿って7月からの活動報告をさせていただく。

- ・小中学校に対して、進路や就労支援等の情報発信が大切だと感じた。
- ・進路担当者、経営者との意見交換会を通して、進路担当がいろいろな悩みを抱えながらやっていることが分かった。進路担当を育てていくことも重要だと気づく機会になった。
- ・保護者対象のファンケルスマイル見学会の中で、「見るということが大事だ」という言葉が印象に残っている

Q (会長) 対象は近隣の小中学校 (の保護者) か? → A (教頭) そのとおり。

- ・分教室の生徒を対象に副会長からお話をいただいた。※9/20 舞岡分、9/21 横浜平沼分 生徒にとっては担任に普段から言われていることを強化してもらう機会にもなった。うなずきながら話を聞く生徒の姿がとても印象的だった。
- ・今後本校の生徒や保護者を対象に副会長、A委員からお話をさせていただく予定。
- ・まだ目に見えた効果はないが、分教室の生徒にとって、とても腑に落ちた感じになっていることは確実。また、小中への情報発信、早期からの情報共有は大切。本人、保護者ともに就労に向けた意識へとつながっていくと感じた。

◆本校の進路状況について (教頭)

- ・就労は多くないが、就労継続支援B型、また生活介護へのニーズが多い。「進路先未定、在宅等」になる生徒がどうしても数名は出ている。分教室ができて以降この10年でも状況が異なってきていて、分教室でも必ずしも就労につながらないという状況はある。生徒は仕事をしたい、お金をもらいたいという気持ちはあるようだが。
※卒業生の進路状況は学校要覧にも掲載。

●講話「企業が求める人財」の内容について (副会長) ※資料有り

- ・資料に沿って説明。
- ・「企業就労へのステップアップ&チャレンジ」(スライド18~) 小さいころから取り組んでいくことが大事。
- ・特別支援学校の就職率は日本全体では30~32% 東京都47%、神奈川27%となっている。神奈川の企業と学校が頑張っていくことが伸びしろ。全国が30%を切らないように頑張っていきたいところ。

各委員からの質問・意見

Q (B委員)

- ・3年間の進路状況について。10年前とは違うというのは具体的にいうと。

A (教頭)

- ・就労可能な生徒の入学が少なくなっているという状況。

(B委員)

- ・以前は特性等がある子も通常の高校に入学していたが、現在はインクル校、分教室などがある。「就労を考えているのであれば分教室がよい」と助言している。
- ・特別支援だと部活などが盛んではなく、高校3年間は他の子と同じことを経験させたいという保護者もいる。将来的には就労と考えていたとしても、高校卒業の18歳からではなく専門学校等に行って20歳あたりからという考えもある。
- ・通常の高校だと実習なども休んで行くよう言えない。ハローワークから求人が来るわけではなく、進路指導のノウハウもない。
- ・特別支援の就労支援のノウハウを高等学校にも伝えていくべき移行期なのでは。特別支援の進路担当が地域のインクル校の生徒も見るというのも必要かもしれない。県全体でやっていくよう、形を変えていく取組が必要。

(会長)

- ・それも踏まえて次年度に向けた取組を考えていければ。

Q (C委員) 就労支援B型とは？

A (副会長)

- ・障害者雇用部会の組織や取組、および、就労移行支援、就労継続支援B型、就労継続支援A型のそれぞれの特色について説明。※詳細省略

(会長)

他に質問・意見あれば

(F委員)

進路状況について、数字を見ても親としてはピンとこない。意思を出せる子ならよいが、子どもが望んでいる、適している就労先なのかが気になる。支援学校では必ずしも就労がベストとは限らない。

親としては適切な進路先に行かせてもらうのが一番。結果、就労率が下がったとして、それが悪いことなのかとも思う。支援学校ならではの考え方があってもよいと思う。

(教頭)

- ・進路先の決定については、自己選択、自己決定を大切にしている。難しい場合は、本人や保護者とも相談し、サポートしながら進路を決定している。

(会長)

- ・「本人が望んで」というのがおそらく進路決定の基準になる。そのためにこういった取組をしていくのかという考え方になる。
- ・実際の離職率、実態は？

(教頭)

卒業後3年間はアフターフォローしているが、やはり離職はゼロではない。令和4年度卒業生も1人離職している。今は学校も入りながら今後の方向についてバックアップしている。

(副会長)

- ・特別支援学校卒業生の離職率については3年定着率 85%というデータがある。大学卒の定着率よりもずっとよい。

(会長)

- ・進路を考えていくにあたり、「なりたい自分」を理念にして小学部からとおして進めていくが、やはり現状、実態は異なってきたということもある。本日の議論をとおして形を変えていくことも必要と思った。
- ・就労支援・進路支援の取組について、今年度で終わらせず、ある程度のスパンで考えていくことが大事。
- ・保土ヶ谷支援がセンター的機能を担当するブロックの中で、どのように取組を進めていくのかも視野に入れ、次年度も継続する方向で検討できないかと考える。継続していくということではよいか。

(参加者)・良い

(会長)

- ・保土ヶ谷支援の一つのカラーとして根付いていくとよい。5分前となった。全体を通しての意見がないようなので、ここで協議を終了する。

7 事務連絡 (副校長)

- ・次回第3回学校運営協議会 12月13日(水) 舞岡分教室で実施
舞岡分教室の取組報告、横浜平沼分教室の取組、授業の様子等を見ていただく予定。
- ・午前中に実施する。日程近くなったら改めて連絡する。

8 副会長挨拶

- ・今日も大切なお意見をいただいた。今後もお意見をいただけるとありがたい。

9 会長挨拶

- ・前半の中間報告に続き、後半の重点課題では特に重要なお意見をいただいた。盛り上がったのではないかと。その分関心が高い活動の一つだと考えている。
- ・第1回学校運営協議会で提案された就労支援についての重点課題を学校が受け止め、取り入れている。こういった形で継続的に取り組んでいけるかというところ。一過性で終わらないよう、運営協議会でも仕掛けを考えていくところではあるが、自立を促す支援がすすんでいるのではないかと感じた。

以上